



風かおる初夏の候となりました。校庭の木々や芝生も鮮かな緑の若葉に映えております。同窓会のみなさまには、ますますご健康にて社会の各方面においてご活躍なさつておられるものと想え、喜びに堪えません。

窓をあとにする卒業生の感傷のこもった式でした。

また、四月九日には第31回生、四〇五名（男二〇二名、女子二〇三名）の入学式を挙行いたしました。武藏高校を志望し、それがかななつ入学をした生徒たちでしたから、希望にみちた、明るい顔、顔、顔…で歴然とした式でした。

私はつくづく、こうして歴史が積み重ねられていくのだなあとう感懷をもつた次第であります。

さて、武藏高校は創立（昭和15年）以来、36年を経過し、37年目にはいりました。人生でいえば、

まさに壯年に達しようとする気力・体力にみち、充実した時代といえましよう。この間本校は、戦争・敗戦・戦後という日本の歴史にかつてなかつた激動的な変革の時代に遭遇しつつ今日にいたつてお

同窓会のみなさまへ

東京都立武藏高等学校長
中村 稲作

(3) 良識的行動をとり、非行は、ほとんどないこと。
以上のように見ていきますと、私は、これが武藏高校の校風であり伝統であるといえると思います。もちろん、生徒全員がそうである

があります。その一つは「生徒ひとりひとりが本来もつている可能の能力を、伸ばしていないのではないか」ということです。

多摩地区の有名校として成績のよい生徒の入学している学校の生徒

す。教員の指導のあり方について
考えていくことはもちろんであります。
とともに、家庭教育や本人の自覚などとも相まってこの課題
解決に全力をつくしたいと、私は
考えます。

ないであります。現代は多様な価値観を認め、共存していく時代だということがよくいわれていますが、とにかく、困難な問題にちがいありません。私は、こういう時代ではありますが、都立高校三

と考えます。このことが実現する
ような武藏高校にしたい、と私は
考えています。

コブシの木だけは残った!! = 順次会議室のカゲに =

昔の武蔵高木は絶の才立たれてつまれていた。それも意図的に造園されたものでなく、創立前にあつた農家の家敷林をそのままとりいれた武蔵野の自然そのものであった。

昭和三十年頃までの校庭は、南側に広い草地があつて、隣接の後藤さんの松林につづいていた。旧体育館（現在のプール）の周囲には、西と南にケヤキとカシの並木があり、東にはヤマモミジの林があつて校庭に風致を添えるとともに生徒の憩の場となつていた。また、旧物理室と化学室（現在の体育馆）の前にはカシの森と並木があり、その南端にコブシの木があ

つぱいつけて校庭を飾つてくれた。このような昔日の面影は、現在の武蔵にはまったく無くなつてしまつた。それは、昭和三十一年頃からはじまつた樹木の伐採による体育館の屋根を荒すといつて西側のカシやケヤキが切り倒され、教室を暗くするといつて旧化学室前のカシの並木がとりはらわれた。また、増改築の邪魔になるからといって多くの樹木が犠牲になつた。その頃、整枝や移植のことを言いくつても通らなかつた。将来のことを考えて丁寧な校舎造りをすれば犠牲にならずにすんだ樹がたくさんあつた。

コブシの木も、三十二年の伐採の時に鋸の歯がはりかけた。それを運よく発見して切り倒さずにいることがある。その後も、いつ切られる運命になるかと心配していたが、最近になつて緑化的重要性が認められて移植の予算がとれ、昭和四十八年の冬に現在地(会議室の前庭)に移植することができた。移植当初は枯れないようになると祈る気持ちでいたが元気に活着し今年はたくさんの花をつけてくれた。

このコブシの木は、樹齢からい
つても武藏野に数本きりない大木
である。ちなみに、玉川上水ぞい
に現存するコブシの大木を調べて
みると、多摩湖線の踏切り近くに
一本、小金井橋に近い海岸寺の境
内に一本、そして武藏高校に一本
と計三本ある。そのうち武藏のが
幹廻りが一番太い。残念なことに、
移植の時枝をつめてしまったので
今のところ枝振りは悪いが、これ
から五年十年とたてばきっと立派
な姿になってくれるであろう。

最近武藏野の緑は後退の一途を
たどっている。そして歴史を経た
古木がだんだん少なくなつて行く

が、このコブシだけは武藏、高校の宝として永く保存したいものである。

§ § §

としては、特に、ふだんの学習活動の態度や成果がもつと高まってもよいそうして、ほとんどの生徒が大学へ進学してしまいますが、もつと、大学進学成績が向上してもよい、ということです。ある先生は、三段跳でいえば、ホップ・ステップまではよくいくが、最後のジャンプが伸びない、と比喩的指摘をしています。

上・コブシ移植（48・1・25）
はたして再び花が咲くかどうか
か心配しながら……
下・見事に開花した「コブシの花」
(49・4・1)

同窓会総会は5月9日

- 会 場：母校 体育館（新館）
- 時 間：PM 1:00～4:00
- 催 物：フォークダンス・大合唱
- 特別出演：おなじみ ジミー時田とマリ
- 会 費：500円 新会員（今年の）

★みんなで参加できる企

コブシによせて

閼塲正

第 11 号
編集発所
藏野市境4-13-28
立武藏高校
同窓会編集委員会
話 武藏野(51)4554
刷所 杠木印刷
藏野市境3-17-1



写真説明

〔写真説明〕

同窓会総会は5月9日(第2日曜日)

- 会 場：母校 体育館（新館）
 - 時 間：PM 1:00～4:00
 - 催 物：フォークダンス・大合唱・ゲーム等
 - 特別出演：おなじみ ジミー時田とマウンティン プレイボーイズ（II）
 - 会 費：500円 新会員（今年の卒業生）は無料

★みんなで参加できる企画をたてました★

同窓会むさし

同窓会三十周年を迎える日に

同窓会長 若井 博

同窓会の仕事を始めたのが、たしか昭和三十五年からであったから、かれこれ十五年あまり母校へ足を運んでいることになり、母校の移り変わりをしてきたことになる。

その都度その都度の変り様にはさして気を止めることなく過してきたが、同窓会の三十周年を迎える日、あらためて移り変わりの節々を回顧すれば、その変貌のしように大きな驚きが新たに現れる。乙女たちは飛行場の少女たちとして学徒動員されたと聞く。戦後男女共学ともなった、不慮の

校舎火災にみまわれたこともあつた、また学園紛争の中教師も生徒も共に悩み、語つたこともあつた。

都市化現象は、母校の周囲にも押し寄せていつか一本一本と緑が姿を消し、多くの住宅が犇めき合ひ、校歌の第一節にうたわれた、武蔵野の林は今は無い。

母校自体も変わつた。数次にわたり校舎改築は木造校舎を一掃し、寝そべつた校庭のあの草原も今はグラウンドと化した。木造校舎時代を知る人々に、往時の面影はどうにも見当らないのではないだろうか。学校改築は、また卒業生の

学窓を巣立つた同窓生の数は、一万をゆうに越すまでになり、「同窓会むさし」の郵送にも大変な経験を要し、うれしい悲鳴をあげる程の同窓会となつた。